

「オーストラリア文系プログラム参加報告書」

京都大学農学部・研究科1年 (武津佳奈)

①現地の大学で印象的であったことは、生徒たちの積極性です。現地の学生が受けている授業を見学していると400人ほどの多くのひとが入る教室でも前から席が埋まっていき、授業が始まると皆が顔をあげ必死に話を聞いており先生が質問を投げかけると口々に自分の意見を答えていました。これはなかなか日本の授業、特に大人数の授業では見られないため、とても驚き、また私たち日本人はこのままではいけないのではないかと危機感も強く感じさせられ日本で授業を受ける時に自分の意見を考えながら受けるよう心がけようと思いました。

また今回のプログラムでは日本の文化を紹介するプレゼンテーションを現地の学生に対してする機会や、日本語を勉強している学生と話をする機会がありました。そこで出会った人々はオーストラリア出身の人だけでなく、中国や韓国から留学で来ている人も多く様々な国の人と話す機会がありました。その際、日本のことを私がよく知らないことを痛感させられ、海外の人と接するときにはまず日本のことを知らなければならないと強く思いました。そして話した人々は自国のことをよく知っていてそれに対する自分の意見をもっていてとても興味深い話ができ、より多くの国の人々と話したいという気持ちが強くなりました。

今回で長期留学をしたときに直面するであろう自分の問題点を気づくことができたと思うのでこの問題に取り組み、実りのある長期留学をしたいと感じました。

②このプログラムではホームステイをさせて頂きました。ホームステイ先で日曜日に教会へ一緒に行き初めて礼拝を見学しました。日本で家族と暮らしては経験できない体験することができました。

③英語での会話やオーストラリアの文化、国際理解についての授業を大学で受けたほか、博物館や、ブルーマウンテンなど校外での学習、シドニー大学の学生との交流などでした。わたしたち京都大学の生徒だけの授業が主でしたが、それは日本でも受けることが可能だと思うのでシドニー大学の生徒が受けている授業の見学など長期留学した時に受けるものと同じものをもっと経験できれば、よりよかったのではないかと思います。

④紀伊国屋で働く方の話を聞かせて頂き、自分の進路を考える機会がもてました。今後海外で勤務するということが特別ではないと感じました。自分の将来の選択肢が広がりました。